

■高橋箒庵(義雄)
たかはし そうあん
遣欧使節・・1861＝

数寄者。近代茶道史に特筆される存在。近代的な百貨店としての{三越}の誕生に貢献。

水戸城下三ノ町で、藩の下級士族の四男に生まれる。横山大観も同郷。

家は貧しく、次兄・三兄は他家へ養子に出され、

明治維新・・1868＝7歳：

藩校自彊舎に学ぶが、

初の日刊新聞1870＝9歳：

廃藩置県・・1871＝10歳：廃藩後、

明治6年政変1873＝12歳：茨城県多賀郡相田村の呉服荒物商に丁稚奉公に出る。

三つの反乱・1876＝15歳：実家に戻って、

中学に進み、

琉球処分・・1879＝18歳：

明治14年政変1881＝20歳：卒業間近、_福沢諭吉が時事新報記者養成のため、特待の塾生を募集したのに応じ、慶応義塾に入学、
新体詩抄・・1882＝21歳：_級友黒岩涙香と意気投合。卒業して、時事新報に入社。福沢の論説口授に従うなど、新聞人となった。

秩父事件・・1884＝23歳：*荒唐無稽な「日本人種改良論」で華々しくデビュー、

帝国大学始・1886＝25歳：_金銭蔑視を批判した「拝金宗(一名商売のスヽメ)」はベストセラーに、
国民之友始・1887＝26歳：翻訳「梨園の曙」、「通俗日本商業教育論」「通俗日本農業教育論」を出版を出版後、_外遊資金を提供してくれる人を得、時事新報を退社、アメリカに渡って、ボーキブシーのイーストマン商業学校に留学、
初の対等条約1888＝27歳：卒業し、ヨーロッパに渡って美術館歴訪するなどして、
帝国憲法発布1889＝28歳：_帰国。

帝国議会始・1890＝29歳：「英国風俗鏡」を出版。_日本の商業革新を訴えた「商業一新」が井上馨の目に留まって知遇を得、
大津事件・・1891＝30歳：長谷川万省の次女千代子と結婚。_井上が中上川彦次郎に改革させ始めた三井銀行に送り込まれ、
郡司千島探検1893＝32歳：三井銀行大阪支店長として同地に赴任。悠々たる仕事ぶりが、部下小林一三に記されることになる。

日清戦争始・1894＝33歳：

日清戦争終・1895＝34歳：*益田克徳(鈍翁の弟)の茶会に招かれ、初めて茶室に入る。三井の負担になっていた{越後屋本店}改革を命じられて、理事に就任。社長に三井本家宗主を据えるとともに、まず形からと、{三井呉服店}と改称。陳列場、複式簿記、学卒採用、新商品開発など、近代化を断行し、次々とアイディアを出すも、

八幡製鉄始・1897＝36歳：

政党内閣初・1898＝37歳：三井鉱山理事を兼任。_三井家始まって以来の従業員のストライキが発生。改革は頓挫し破綻の危惧に、中上川に相談、人心掌握に優れる同郷の日比翁助を得て、危機を脱し、以後、両者一体となって改革を進めて行く。麹町一番町の新宅に茶室{寸松庵}を移築、箒庵を号し、最高の数寄者の集まり{和敬会}のメンバーを迎えて好評を博し、会員に加えられる。
この間、益田克徳が死去、益田孝(鈍翁)が大々的に茶会を始め、関西の大数寄者平瀬露香が死去する一方、同僚朝吹英二が活躍、原三溪が登場するなど、数寄者の世界に大きなエポック。
日露戦争始・1904＝43歳：_近代的な百貨店としての{三越}の誕生に目途が立つと、後は、日比翁助に任せ、

日露戦争終・1905＝44歳：

満鉄発足・・1906＝45歳：退職。團十郎追善興行での茶会を担当した際、音曲入りとして話題に。

伊藤博文暗殺1909＝48歳：_三井で重きを成すが、心ならずも入ってしまった実業界からの引退を考えるようになり、
韓国併合・・1910＝49歳：妻千代子が死去。王子製紙会社専務に就任、_境内に和歌の師小出衆の記念碑を建立して護国寺との縁故、
大逆事件判決1911＝50歳：慕っていた通人平岡熙の次女楊子と再婚。_「八窓庵茶会記」出版を契機に、引退を決意、
明治天皇没・1912＝51歳：_時事新報に(自らに課した第一の仕事)「東都茶会記」を連載し、(第二の仕事)日記「萬蔵録」の執筆を開始、

第一次大戦始1914＝53歳：四谷伝馬町の_新宅に茶室{白紙庵}完成、設計の才も見せる。「東都茶会記」出版開始。「我楽多籠」出版。

21ヶ条要求・1915＝54歳：母が死去。「実業懺悔」「へそ茶」出版。光悦会の創立に参加。

民本主義・・1916＝55歳：「水戸学」出版。光悦寺に茶室{阿称庵}を寄進。この間、奈良の古刹での伽藍石蒐集に拍車をかけ、

ロシア革命・1917＝56歳：第一次大戦バブルピークで、史上空前の道具高騰となる。赤坂一ツ木町の_新宅に茶室{伽藍洞一木庵}完成。
。(自らに課した第三で最大の仕事)名家の秘蔵する茶道名器の集成編集を開始、
本格政党内閣1918＝57歳：皮切りとなる松平家の「茶器実見記」出版。

べルシ条約・1919＝58歳：_「東都茶会記」完結すると、

原敬首相暗殺1921＝60歳：「大正名器鑑」刊行始。「庚申大正茶道記」出版。「萬蔵録」執筆終わる。

水平社結成・1922＝61歳：「辛酉大正茶道記」出版。護国寺に名物灯籠20基を寄進。

関東大震災・1923＝62歳：「石灯籠供養縁起」出版。

護憲三派圧勝1924＝63歳：「癸亥大正茶道記」出版。

治安維持法・1925＝64歳：「山公遺訓」「甲子大正茶道記」出版。護国寺に松平不昧の墓を寄進し、

円本時代始・1926＝65歳：記念した茶室{円成庵}も完成。「大正名器鑑」完結し、

金融恐慌・・1927＝66歳：長女芳子誕生。「余の福沢先生初対面談」出版。

共産党事件・1928＝67歳：普及版刊行記念して、帝国ホテルで告成会開催。「丙寅大正茶道記」出版。

世界恐慌・・1929＝68歳：「昭和茶道記」「近世道具移動史」出版。

益田鈍翁(孝)を盟友とし、

満州事変・・1931＝70歳：高山寺に茶室{遺香庵}を寄進。_「茶道実演録」出版。

五一五事件・1932＝71歳：「おらが茶の湯」「趣味至上主義」を発表し、高谷宗範と論争。

国際連盟脱退1933＝72歳：_自伝「箒のあと」を出版。東京放送局のラジオ放送に出演、翌年にかけて「十二カ月茶の湯」講話。

芥川直木賞始1935＝74歳：「趣味ぶくろ」出版。

二二六事件・1936＝75歳：「茶道読本」「大正・昭和北野大茶湯」出版。

日中戦争始・1937＝76歳：*近代茶道史に特筆される存在となって、没した。

熊倉功夫「近代数寄者の茶の湯」、林洋海「〃三越〃をつくったサムライ 日比翁助」、